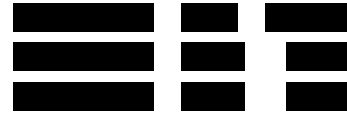


「私たちが学校の校長先生だったら、宿題は廃止するか、廃止しないか」について

自立型個別指導塾 ウィルアカデミー 沼袋江古田教室



I. 私たちのチームの意見の結論とその大まかな理由



私たちのチームで、まず初めに、私たちが校長先生だとしたら、「宿題を廃止するか、しない」か、話し合ったところ、全会一致で、「宿題を廃止しない」という意見になりました。

けれども、その理由を考えたところ、すぐに明確な答えが見つかりませんでした。そこで、理由をそれぞれ、思いつくままに、みんなで意見を出し合って考えてみました。そして、同じような理由になるものを分類しながら、整理して考えてみました。

理由A. 宿題をすると成績が向上する効果がある

みんなで出した意見

宿題をすると自分の苦手なところ分かるから。

家庭学習の時間を増やせる。

自習も兼ねることができる。

宿題をやることで復習になる。

その日覚えたことをさらに身につけるため。

理由B. 宿題をすることが自分の将来・高校進学・就職につながっていく

みんなで出した意見

自分のため。

頭が良くなるため。

いい高校・大学に進学するため。

社会に出て困らないようにするため。

大人になって稼げる・生きていけるようになるため。

周りから期待されるいい人材になるため。

将来立派な大人になるため。

理由C. 宿題自体あって当たり前

みんなで出した意見

宿題は自分たちの仕事だから。

宿題は暇つぶしになる。

遊びと勉強の両立が必要。遊ぶばかりではダメ。楽しいことばかりしてしまう。

義務教育だから。

学校だけでなく、家でも勉強すべき。

宿題がないとまったく勉強しなくなる人がいる。

テスト直前だけ勉強というのを避けるため。

だいたい、この3つに分類されました。私たちは、普段、理由Cのように、先生から宿題を出されたのでやらなければならない、または、宿題があったらやるしかない、と考えていたように思っていました。けれども、本当に宿題がない状態で過ごしていたらどうだろうと

考えたら、理由Aの宿題をすると成績が向上するという効果があることや、理由Bのように、宿題をすること、宿題をする習慣が、将来に結びついているのだろうと考えていることが分かりました。

また、WEBでの議論でも、気になったコメントも見ると、それぞれの意見もだいたい上のどれか3つのおおまかな理由に分類できました。コメントのカッコは、どの理由にあてはまるか書いています。

(Q2. 宿題があったほうが良い、ない方がよいと思う理由は)

ないと、テストの点がさがるんで、宿題があったほうが良い。(理由A)

宿題はあったほうが良いと思います。宿題がないと、何もやらないから。将来のためになると思う。(理由B)

あったほうが良いと思う。理由：家庭学習60分(中一)しなければならないので、親に言われる前にできるので、あったほうが良いと思います。(理由C)

(Q3. もし、宿題を出すとしたらどんな宿題が効果的だと思いますか?)

宿題はテスト前だったらテスト勉強が効果的だと思います。(理由A)

宿題大事！なぜなら、宿題も授業と同じく頭を使うから。(理由A)

宿題は人のためじゃなく自分のためです。勘違いはだめですよ！(理由B)

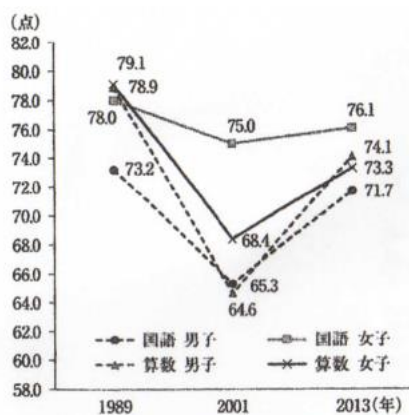
宿題はいらないという人は、未来を考えていない人です。私は宿題が絶対に、必要だと思います。(理由B)

(Q4はWEB議論が見られない状態だったので書いていません。)

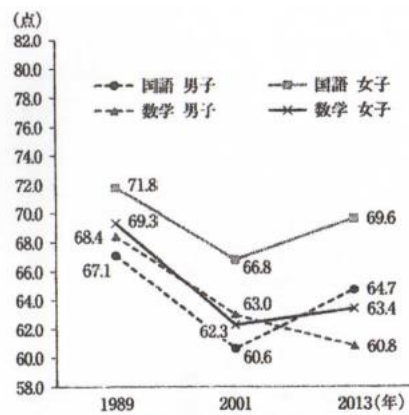
「宿題を廃止しない」とした時の、この3つの理由が、果たして正しいのか、調べていきました。

II. 理由A. 宿題をすると成績が向上する効果がある。

「学力格差」の実態（文献1-1）の本によると、小学生、中学生の学力について、2013年は1989年よりは学力は低くなっていますが、2001年の学力低下の状態より回復しつつあります。（図Ⅲ-1）



図Ⅲ-1 学力の男女差推移：小学校



図Ⅲ-2 学力の男女差推移：中学校

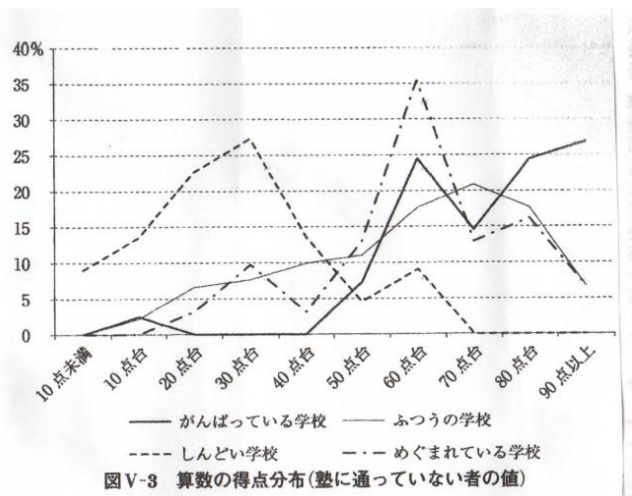
この背景の中に、学校側の働きかけによって、全体的に学力の底上げに成功している学校があることが分かりました。

このことを説明する前に、各家庭の社会的背景と学力について、触れたいと思います。各家庭の社会的背景（世帯の所得など）によって、子どもに教育費にどのくらいお金をかけられるか変わるので、そのお金をかけただけ学力が高くなるという統計があるようです。たとえば、塾に通っている生徒と塾に通っていない生徒では、塾に通っている生徒の平均得点は高くなります。（文献1-1の表Ⅲ-2）

表Ⅲ-2 2001・2013年 通塾状況別平均得点の男女差

年	性別	通塾状況	国語(度数)		数学(度数)	
			平均	差	平均	差
2001年	男子	非通塾	53.2 (271)	12.1	51.1 (273)	23.6
		通塾	65.3 (321)		74.7 (319)	
	女子	非通塾	62.7 (307)	7.9	54.9 (314)	18.3
		通塾	70.6 (283)		73.2 (287)	
2013年	男子	非通塾	63.7 (219)	3.5	55.1 (218)	13.6
		通塾	67.2 (222)		68.7 (221)	
	女子	非通塾	67.6 (220)	3.1	56.4 (219)	15.4
		通塾	70.7 (230)		71.8 (230)	

ところが、この本の調査によると、必ずしも、社会的背景が恵まれていなくても、学力の底上げに成功している学校があるということが分かりました。塾に通っていない者の算数の得点分布（文献1-1 図Ⅴ-3 算数の得点分布）というグラフをみると、塾に通っていない者でも、生徒に対して働きかけをしている学校（図Ⅴ-3の頑張っている学校）は、算数の得点が高くなるということが分かります。



ここで、ふつうの学校とは社会的背景が平均的な地域にある学校のことで、それに比べて、社会的背景が恵まれている地域にある学校を恵まれている学校、社会的背景が有利ではない地域にあるしんどい学校を表しています。また、社会的背景が有利ではないにも関わらず学力格差の拡大を克服している効果のある学校を、がんばっている学校と表しています。

頑張っている学校のアンケートの結果をみると、学校側が、授業形態の工夫、家庭学習への取り組みや保護者への働きかけをしていることがわかります。表V-5から、がんばっている学校は、家で勉強する時間について「ほとんどしない」という回答が少なく、「学校の宿題はする」、また「宿題はきちんとする」という回答は高くなっています。

表V-5 中学校のアンケートの結果

		がんばっている学校	その他のしんどい学校	回答内容
家庭学習	家で勉強をする時間	35.0%	47.2%	「ほとんどしない」
	学校の宿題をする	36.7%	26.6%	「いつもする」
	宿題はきちんとする	82.9%	62.1%	「とてもあてはまる」
授業形態(数学)	教科書や黒板を使って先生が教える	93.7%	82.2%	「よくある」
	ドリルや小テストをする	80.5%	44.4%	「よくある」「ときどきある」
	宿題がでる	79.1%	63.7%	「よくある」「ときどきある」
	ペアやグループで話し合う	49.4%	66.3%	「よくある」「ときどきある」
	自分で考えたり、調べたりする	67.3%	62.0%	「よくある」「ときどきある」
	自分たちの考えを発表したり、意見を言い合う	50.6%	54.3%	「よくある」「ときどきある」
	パソコンを活用する	4.4%	4.2%	「よくある」「ときどきある」
対象者数(生徒)		180	452	
保護者	学校の教育目標を知っている	26.1%	24.3%	「知っている」
	学校は期待に応えてくれている	71.6%	50.7%	「そう思う」「どちらかといえばそう思う」
	学力の状況について説明してくれる	56.6%	58.9%	「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」
	学校は学習の仕方を教えてくれる	38.6%	23.9%	「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」
	先生に相談したり要望を伝えやすい	64.6%	69.0%	「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」
	地域の子どもの教育に関わってくれる人が多い	78.0%	54.2%	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」
	ボランティアでの学校の支援	13.4%	12.2%	「よくする」「時々する」
対象者数(保護者)		84	71	

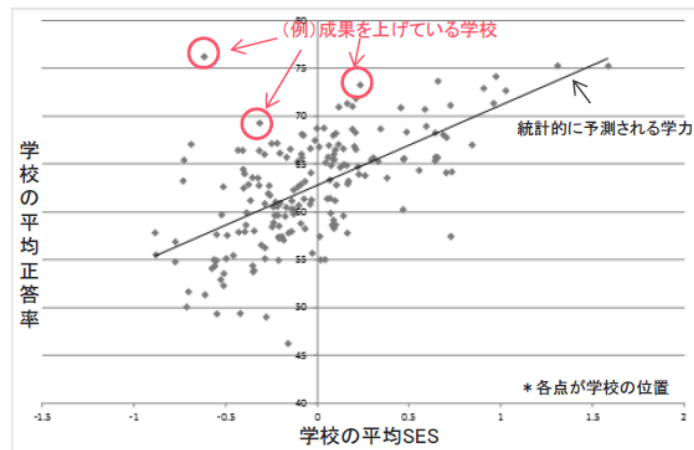
注：網かけ部分は、他の中学校よりも10%以上結果が肯定的であることを示している。

このことは、国立教育政策研究所の文部科学省委託研究のレポートのまとめられたもの(文献1-2)にも書かれており、社会経済的背景が統計的に予測される学力を上回る成果を上げている学校があり、それらの学校は家庭学習の指導を重点的に働きかけていることが分かりました。

3 不利な環境においても成果を上げている学校の取組

(1) 学校全体の学力の向上

- 児童生徒の家庭の社会的経済的背景(SES)から統計的に予測される学力を上回る成果を上げている学校もある。



学校の平均SESと教科の平均正答率の関係の例 <小学校・算数A、学級数2以上>

- このような学校全体の学力の向上に効果を上げている学校では、以下の共通の特徴が見られた。(訪問調査の結果)

- 家庭学習の指導の充実
(例: 児童生徒に宿題だけでなく自主学習等に取り組ませ、教員が毎日チェック・コメントをしている。)
- 管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視
(例: 中学校において教科を超えて授業を見せ合い、教え合いを行っている。管理職が明確なビジョンや方針を示し共通理解を図っている。他校の授業を見る研修を促している。)
- 小中連携の取組の推進
(例: 小中で学習規律・生活規律面や教育課程での系統性を図っている。)
- 言語活動の充実等
(例: ノート指導の充実。黒板に「めあて(目的)」を書き、授業のねらいを明確化させる。教育課程全般で「話すこと」や「書くこと」に力を入れている(「聞くこと」はできている)。読書習慣の形成に力を入れている。)
- 各種学力調査の積極的な活用
- 基礎・基本の定着と少人数指導
(例: 基礎・基本の徹底。少人数指導、チームティーチング、習熟度別指導の導入。)

4

同じく、国立教育政策研究所の文部科学省委託研究の詳細が書かれている論文(文献1-3)にも、アンケートの結果、計画的に勉強するようにながしている家庭とうながしていない家庭では、どの教科においても、計画的に勉強するようにながしている家庭の方が、点数が高いということが分かりました。

図表2-1-19 「計画的に勉強するようにうながしている」と学力の関係

	小6					中3				
	国語A	国語B	算数A	算数B	%	国語A	国語B	数学A	数学B	%
あてはまる	67.0	53.4	80.7	62.4	23.0	78.4	69.8	66.8	44.6	20.9
どちらかといえばあてはまる	63.1	49.9	77.6	58.9	47.3	76.4	67.1	63.8	41.3	49.8
どちらかといえばあてはまらない	58.5	45.3	73.5	54.0	22.8	74.3	65.5	60.3	38.5	21.9
あてはまらない	60.2	46.8	74.7	57.0	6.9	75.4	67.3	62.4	41.1	7.4
合計	62.8	49.4	77.2	58.5	100.0	76.3	67.3	63.5	41.4	100.0

以上、これらのことから、私たちは、学習意欲と学習行動の変化が、学力向上へ大きく関係していると思いました。成績が下がっても気にならないという子どもより自分から進んで勉強する子どもや嫌いな科目の勉強でも頑張ると思う子どもの方が、勉強により熱心に取り組めて、学力が向上すると思いました。宿題を出すことで、学習行動にいい影響を及ぼすだろうし、また、もし私が先生の立場から宿題を出すならば、学習意欲を湧いてくる効果的な宿題を出したいと考えます。

III. 理由 B. 宿題をすることが自分の将来・高校進学・就職につながっていく

II. から、宿題をすることで、いい成績が取れることが分かりました。勉強が自分の将来・高校進学・就職につながるということを考えるにあたって、勉強することで、将来どのくらい稼ぐことができるか調べてみました。

学歴別の年収・収入格差データ（文献 2-1）によると、高学歴になるほど、平均年収と、一生涯に稼げる年収が多いことが分かりました。

学歴別平均年収

学歴 (年収)	男性	女性
中学卒	383万9600円	242万6500円
高校卒	458万5100円	294万2300円
高専・短大卒	484万1300円	381万2100円
大学・大学院卒	648万1600円	443万4600円

※データ 「平成24年 賃金構造基本統計調査」

学歴別生涯年収

学歴 (生涯年収)	男性	女性
中学卒	1億7130万円	1億1050万円
高校卒	1億9040万円	1億2470万円
高専・短大卒	2億40万円	1億5890万円
大学・大学院卒	2億5180万円	1億9930万円

※データ 「コースフル労働統計-労働統計加工指標集-2012」より参照。

また、I S F J 政策フォーラム 2010 発表論文（文献 2-2）の中にも、高学歴保持者は比較的高い年収を稼いでいるという傾向が分かりました。

表 3 30歳年収ランキング 国立大学難易度ランキング

大学名	就職上位層の30歳の平均年収(万円)	大学名	経済学部偏差値
一橋大学	654	早稲田大学	72.5
慶応大学	634	東京大学	70
関西学院大学	624	慶応大学	70
椋山女学院大学	623	一橋大学	67.5
東京大学	619	上智大学	67.5
共立女子大学	616	京都大学	67.5
学習院大学	616	大阪大学	65
筑波大学	615	青山学院大学	62.5
大妻女子大学	612	立教大学	62.5
東京外国語大学	611	横浜国立大学	62.5
早稲田大学	609	名古屋大学	62.5
成蹊大学	608	神戸大学	62.5
京都大学	606	東北大学	60
上智大学	606	学習院大学	60

出所：東洋経済（2010）「ニッポンの大学トップ100」より作成

勉強をすることで、成績が上がり、それにより高校進学だけでなく、自分の将来就きたい職業へ向けて、専門学校や大学へ進学、大学の中でも、偏差値の高い大学に入学できると、将来、収入の多い仕事に就けることが分かりました。

収入が多いことが、自分の将来のしたいことにつながるかどうかは、分かりません。しかし、この表をみると、両方とも平均年収と書いてあります。不況などで、なかなか就職

が難しいとニュースや新聞で見たり聞いたりするのを考えると、勉強して学歴が高い方が、平均して安定した収入を稼げるのではないかと考えられました。仕事が安定するということは、自分のやりたいことを実現しやすいと思いますので、将来良い仕事、安定で高い収入を目指すためにも、宿題は必要だと思います。

IV. 理由C：宿題自体あって当たり前

宿題自体あって当たり前であることについて、考えてみました。
理由Cの分けられた意見を一つずつみていくと、学生の仕事は勉強であるとか、宿題を「すべき」という表現が多いことに気づきます。ここでは、私たちが、宿題を義務的に考えているというところに着目してみました。

公民で、日本の三大義務で習った内容を思い出しました。一つ目に教育を受けさせる義務、二つ目に勤労の義務、三つ目に納税の義務です。この義務を果たすことと、宿題が必要だと言うことのつながりを、考えてみました。

もし、三大義務がなかったら、日本はどんな国になるのでしょうか？

おそらく、国民は、好き勝手遊んだりしてしまい、国が成り立たなくなるでしょう。公民の教科書から、税金には、消費税・地方消費税・所得税・住民税・法人税・酒税・たばこ税・たばこ特別税の8つの税が、あると書かれていました。この中で、所得税について注目すると、働くべき人が働かず好き勝手遊んでいたら、税金を集めることが出来ません。その税金はどこに使われているのか考えてみると、私たちに生活の周りに必要な道路・学校・水道などに使われています。また、国民が好き勝手遊んでしまわないように、ルールを取り締まる警察官を雇うために使われています。そして、私たちの安全を守るために、病院や医療、緊急時の消防車や救急車を整備するためのお金にも使われています。(文献3-1 国税庁のホームページ)

税の学習コーナー

税の学習コーナー > 学習・入門編 > [税って何に使われているの?] 身近な税の使いみち～国民医療費、年金など～

税って何に使われているの？

身近な税の使いみち～国民医療費、年金など～

わたしたちが納めた税金は、身近なところで使われています。一番多く使われているのは「社会保障」にかかるものです。「社会保障」とは、わたしたちが安心して生活していくために必要な「医療」「年金」「介護」「福祉」などの公的サービス（国や地方がする仕事）のことをいいます。もう少し具体的に調べてみましょう。

🌀 どんとき税金が使われているのでしょうか。

病気になるたとき

かぜを引いたり、けがをしたりして病院で手当てをしてもらうと、お金がかかります。かかった金額の一部には、税金が使われています。

年金をもらうとき

老後も安心して暮らしていくために国から受けとるお金（年金）の一部には、税金が使われています。

介護が必要になったとき

年をとって体が思うように動かなくなったときなど、介護サービスを利用したときにかかる金額の一部には、税金が使われています。

その他

心や身体に障害のある人や、生活に困っている人たちを助けるためのお金にも税金が使われています。

豆知識：
昭和30年ごろは、生活に困っている人や失業した人を助けるために、多くの税金が使われていました。でも現在は、お年寄りの人が増えたため、税金は医療、年金や介護などに多く使われるようになってるんだよ。

🌀 このようにわたしたちの健康や生活を守るために、税金が使われていることがわかりましたね。そのほかの使いみちをみましょう。

税の学習コーナー

税の学習コーナー > 学習・入門編 > [税って何に使われているの?] 身近な税の使いみち～公共事業～

税って何に使われているの?

身近な税の使いみち～公共事業～

税金は、わたしたちが暮らしやすい環境をつくるために使われています。国や地方がするこうした仕事のことを「公共事業」といい、道路や下水道などを整備しています。

🌀 毎日の生活の中で、税金がどのように使われているのか考えてみましょう。

家のなかで



顔を洗ったり、歯をみがいたり、お風呂やトイレを使うなど、水を毎日使うことができるのは、上下水道の整備がされているからです。ここにも税金が使われています。

通学のときに



安全に通学や通勤ができるように道路を整備するのにも、税金が使われています。

そのほか

公園、港、空港などの整備、森林を守る活動などにも税金が使われています。

豆知識:

日本は、アメリカやヨーロッパの国に比べると、下水道や都市の公園などの整備が遅れていたそうです。でも、がんばって工事をしてきたおかげで、下水道や公園が整備された地域が増えたんだよ。

🌀 このように「公共事業」は、暮らしやすい環境をつくるための大切な仕事だということがわかりましたね。

つぎは、学校などでは、どんなところに税金が使われているのか調べてみましょう。

税の学習コーナー

税の学習コーナー > 学習・入門編 > [税って何に使われているの?] 身近な税の使いみち～教育費～

税って何に使われているの?

身近な税の使いみち～教育費～

わたしたちが通っている学校にも税金が使われています。身近なものから、将来のためのものなど、どんなものに使われているのか調べてみましょう。

🌀 どんなところに税金が使われているのでしょうか。

学習に必要なもの



公立の小・中学校の場合、教科書や教室にあるパソコン、実験器具や体育用具などに税金が使われています。また、私立の学校にも「補助金」というかたちで、税金が使われています。

豆知識:

公立の小・中学校の先生の給料にも、わたしたちが納めた税金が使われているよ。

新しい研究・開発



将来、わたしたちの生活の役に立つように、宇宙開発や科学技術の研究が行われていますが、そこにも税金が使われています。

🌀 税金は教育や研究のためにも役に立っていましたね。

つぎは、わたしたちが住んでいる都道府県や市区町村では、どんなところに税金が使われているのか調べてみましょう。

つまり、勤労をすることで納税ができ、日本国民に納税してもらったお金で、安全な生活が保障され、教育を受けることができるのです。そうすると、今、私たち中学生は何をすべきでしょうか?今の私たちに出来ること、それは、学ぶことだと思います。そうすることで、大人になってからも、働くことで周りの誰かの役に立てると思います。そして、勤労・納税の義務も果たし、新たに入学して来た生徒が安心して教育できる環境を作り、次の世代へバトンタッチできて、日本という国が成り立っていくと思います。

以上の理由から、大人になって社会の中で働くためにも、今後、勉強が必要なので、勉強の習慣をつけるためにも宿題が必要だと考えます。

IV. まとめ

私たちは、私たちが学校の校長先生だったら、宿題を廃止しないという意見になりました。

宿題をすると成績が向上する効果がある、自分自身のため・自分の就職や将来へつながる、子どもは勉強することは義務なので家庭学習である宿題自体あって当たり前という理由から宿題は廃止しません。

V. 今回、レポート作成を行った感想、今後の抱負

成績を上げて、行きたい高校、大学へ余裕で受かりたいです。そして、将来良い仕事に就きたいです ■■■ ■■■

テストで良い点を取って、評価を上げて良い高校へ受かりたいです。今は、自分の目標がないが、社会に出て、これだというものを見つけるようになりたい。その時に自分が好きなことに発揮できるだけの学力・能力を身につけておきたい ■■■ ■■■

私は、小さい頃に、入院した時に看護師さんに助けてもらったとき、看護師がとてもかっこよく見えた。いつか、助けてくれた看護師の方にお礼をしたいと思っていた。私が看護師になることで、困っている人を助けたい。その人が未来の看護師になるためのバトンタッチをしたいです ■■■ ■■■

出典

- 1-1. 書名： 調査報告「学力格差」の実態
著者名：志水宏吉 伊佐夏実 知念 渡 柴野淳一
出版社：岩波書店
発行日：2014年6月4日
- 1-2. 論文名：文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」（国立大学法人お茶の水女子大学）
発表月：2014年3月
URL：
http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/pdf/hogosha_summary.pdf
アクセスした日：2015年7月11日
- 1-3. 論文名：平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究
発表月：2014年3月
URL：
http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/pdf/hogosha_factorial_experiment.pdf
アクセスした日：2015年7月11日
- 2-1. ページ名：学歴別の年収・収入格差データ
URL：
<http://www.nenshuu.net/sonota/contents/gakureki.php>
アクセスした日：2015年7月11日
- 2-2. 論文名：ISFJ政策フォーラム2010 発表論文
著者名：神戸大学 久保広正研究会 教育分科会
大谷錬平 尾崎雄一 國光智子 嶋田容子 重松順平
田嶋成行 田中友理 谷田楠 大黒仁裕 西村加奈子
野中美紗子 浜田なつか 三田村慶子 和氣出
発表月：2010年12月
- 3-1. ページ名：国税庁 税って何に使われているの？身近な税の使いみち
～国民医療費、年金など～
～公共事業～
～教育費～
URL：
<https://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/gakushu/nyumon/page04.htm>
<https://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/gakushu/nyumon/page05.htm>
<https://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/gakushu/nyumon/page06.htm>
アクセスした日：2015年7月11日